



T E N S H I C O L L E G E

学長メッセージ

「天使大学の未来への貢献」

天使大学
学長 丸山知子



プロフィール

1965年 天使女子短期大学厚生科卒業
1967年 天使女子短期大学専攻科卒業
1982年 聖路加看護大学大学院修士課程(看護学)修了
1998年 札幌医科大学 博士(医学)
1982年 札幌医科大学衛生短期学部勤務、その後、1993年保健医療学部となり2009年3月まで札幌医科大学勤務、2003年2月～2009年3月保健医療学部長職に就く
2009年4月～札幌医科大学名誉教授
2009年4月～天使大学看護学科教授
2010年4月～現職

専門は女性健康看護学／母性看護学

わたしは天使大学の前身である天使女子短期大学厚生科16期生、専攻科2期生です。卒業後10数年母校で働き、その後約30年間公立大学で教育に携わっておりました。再び母校に戻り、お役に立てる機会を与えられましたことを心から感謝しております。私にとりましては最後の大事な仕事と認識しており、同窓生はじめ後援会・教職員の方々にも多くのご協力をいただいております。今後とも、これまで以上にお力をお借りしながら、天使大学のさらなる発展にお役に立てるよう努力してまいりたいと考えております。

最近10年間の大学の状況は、私立大学はもちろん、国立大学も大学間競争という大変厳しい状況におかれています。少子化による受験生の減少、社会の経済不況等、さまざまな形で大学に大きな影響を与えております。そのような状況の中、天使大学は昨年10周年をお祝い、大学としての基盤づくりの一つの節目をむかえました。今後は、大学としての更なる内容の充実と発展を目指していかなければなりません。これまで以上に厳しい状況におかれていることを十分認識し、10年、20年先の未来の天使大学を展望しながら、変革する時代に入っていると考えております。

大学の運営と方針の基盤は、カトリック大学としての本学の使命と目的、および国や地域社会の大学に対する期待に依拠すると考えております。建学の精神である「愛をとおして真理へ」は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイ7.12)の生き方を道しるべとし、大学のすべての教職員が学生に示す姿であると考えます。

教育は、一人ひとりの学生の能力・潜在能力を引き出し、その成長を助けることであり、それは、他者/学生への思いやりと信頼、誠実な行動によって支えられる教育環境を通して達成できると考えております。

与えられました任期4年間の方針(2010～2013年)は、天使大学(教学)の将来像/方向性の明確化、学部・学士課程、研究科の人材育成の学生像(入学時から卒業時、および卒業後)の具体化、学生のための多様な学修支援制度の整備、学生参加型学修環境整備、学生の自習等環境整備、特に、看護学科と栄養学科の2学科の特性を生かした4年間プログラムの設置により、栄養に強い看護師:NST(栄養サポートチーム)のリーダー能力育成、医療に強い栄養士:管理栄養士としてリーダー能力育成、を目指し、2学科の活発な連携や他大学、地域、医療等との連携とボランティア活動を通して、幅広い視野の中で考える力を醸成する環境を与えることが、学生にとって、人間として、専門職者としてのアイデンティティを育成するための大学環境だと考えております。

最後になりますが、どうぞ積極的なご意見やサポートを心より期待しております。

卒業生インタビュー

ハイチ大地震で緊急医療支援に参加 これからも世界の被災地へ駆けつけたい

国際緊急援助隊(JDR)登録看護師

杏林大学大学院 国際協力研究科国際医療協力専攻在籍

天使大学看護栄養学部看護学科2006年卒業 近藤 美智子さん

わたしは看護専門学校を卒業後、看護師として市立札幌病院の救命センターやクルーズ客船「にっぽん丸」で経験を積み、35歳で天使大学3年次に編入しました。当時の師長さんからも進学を勧められ、人生を一回リセットして、「愛をとおして真理へ」という建学の精神による教えと幅広い教養を身につけたいと思ったのです。天使大学は憧れの大学でした。看護師として人として、内省する時間と支援をいただいた、そういう2年間でした。先生方からは、バランスよく考えることや、手を触れ、相手の心に触れて対応する大切さを教わりました。頭ではわかってはいたつもりでしたが、自分自身が先生方に大切に「ケア」されたことで、心を育てていただいた気がします。

国際支援を志望したきっかけは、航空自衛隊の救難隊にいた父の影響と、英国の船長だった義兄が世界の国々やボランティアについて話してくれたことが大きかったと思います。国際協力機構(JICA)の国際緊急援助隊(JDR)医療チームに登録し、初めて被災地に派遣されたのは1999年のトルコ北西部地震。2000年のモザンビーク洪水、天使大学在学中の2004年のスリランカ津波、そして2010年1月のハイチ大地震でも派遣されました。中でもハイチの状況は厳しかったですね。首都直下型地震で建物の80%が倒壊し、重症の外傷患者さんがあふれるほどいました。わたしたち日本チーム27名は首都ポルトープランスから西へ40kmのレオガン市にテントを張り、朝8時から夜5時すぎまで、8日間で534人を治療しました。

災害現場は混乱し、被災者は最も辛い立場に立たされますから、トリアージ*をしたり、時には看護師の判断で手当てを行ったり、知識も経験も必要です。感染症との戦い、心のケア、公衆衛生など、幅広い知識も要求されるので、手を挙げるからには常に広く勉強しなければいけません。大きな余震、マラリア感染などの危険にさらされたことも多々ありますが、被災者にとってはもっと怖いのだと思うと、「わたしたちにできることをやらなくては」という気持ちが勝ります。「遠くから来てくれてありがとう」という言葉をいただくと、うれしいですね。トルコでは、倒壊した家の子どもがピースの指輪を作って届けてくれました。とても感動しました。

これからも、チャンスをいただけるなら、まだまだ続けたいと思います。現在は大学院で国際支援の在り方を研究中で、ハイチでの医療支援をテーマに論文を書く予定です。日本には底力があり、優秀な看護師も大勢いるので、もっと国際支援の輪が広がり、いつか天使の後輩の皆さんとも一緒に行けたらいいですね。



緊急医療支援の際に着用したベスト

※トリアージ(Triage): 人材・資源の制約の著しい災害医療において、最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決定すること。

学習支援・生活支援

学習支援・生活支援教員体制が始まりました

看護学科では、2010年度よりこれまでのクラス体制(担任制)に代わり、少数指導、個別指導の学習支援・生活支援教員体制を開始しました。学生が「大学生活に慣れる」ことを目的としたもので、これまで以上に、より密接な学生への学習・生活支援を行うことで、学生が大学生活を送る中で学習面等での悩みや問題を抱えた場合にすぐに気づくことができ、より迅速なフォローを行うことも可能となります。

1年次と2年次については、各学年教員8名体制でサポートを行い、3・4年次については、各学年4名体制で行います。これにより、全教員が学習

支援・生活支援にかかわることとなります。この教員による個別の学習支援・生活支援は、演習・実習についてはもちろんのこと、特に入学して日が浅い1年次に対しては、大学での「自律した学習方法」や「キャリア志向のサポート」にも及びます。さらに、一部の教員が単年ではなく、複数年継続して学生の支援を行うことで、より充実した効果が期待されています。

産学連携

「コープさっぽろ」との産学連携プロジェクト

栄養学科教授 山部 秀子

2009年8月よりコープさっぽろと天使大学は産学連携プロジェクトを始めました。主な内容として、「料理レシピの開発」、「栄養価表示に関する監修」、「食品表示検定試験の協力」などを協定書に盛り込み、食育の推進と食の信頼性の向上に貢献することを目的としています。

「料理レシピの開発」では、コープさっぽろの店舗配置用の料理カードや会員制宅配カタログ(週刊トドック)の掲載用レシピ(右上写真)を提案しています。これらのレシピは学生たちからの応募の他に授業の中で作成されたもの、また「天使の給食(<http://www.tenshi-foodservice.net/>)」を利用してしています。隔月ごとに開かれるプロジェクト会議において、商品の売り上げにどのくらい貢献できているかなどの報告がありますが、平均売上実績と比較して230%や275%の売上を示すレシピも見られます。学生たちには、ただレシピを考えるだけでなく、どのようにしたら販売戦略にかかわることができるのかという経営管理的な面からのアプローチを学ぶ場ともなっています。

「栄養価表示に関する監修」では、コープさっぽろの店舗で販売されている自社商品のお弁当やお惣菜について栄養価算定の監修を行っています。毎月、新商品が出てくる中で作業は大変ですが、近々道内すべての店舗で「天使大学お墨付き」のお弁当などが並ぶ予定です。

また、2010年2月に実施された日本トレーサビリティ協会主催「食品表示検定試験」では初級の部で団体合格者数が全国第2位(19名)となり、10月に東京で表彰されることになりました。

今後の取り組みとしては、共同企画として2011年春に「北海道スタイルレシピコンテスト」を実施予定で、現在準備を進めているところです。また、レシピ開発についても天使大学からの提案事項を増やししながら、さらに新しい可能性を見つけていきたいと考えています。



「天使大学のレシピ」(週刊トドック掲載:10月第1週分)



学内には、「天使大学のレシピ」コーナーがあります

北の食物研究所

『鮭節』でだし汁をとった、手づくりうどんづくり

北の食物研究所部長・栄養学科3年 石崎 恵子

毎年、北の食物研究所は「天使祭」で手作りうどんを販売していますが、今年はさらにひと手間かけ、うどんにかけるつゆも自分たちで作りました。顧問の荒川義人先生と以前から親交が深く、料理のことならなんでもご存知でいらっしゃる焼肉韓国料理「チング」のオーナー料理長 梁 直義氏(写真中央)を講師にお招きし、本返しの作り方や鮭節を使って「だし」をとる方法を教わりました。本返しというのは「だし汁」で割る前のつゆのことで、このつゆを鰹節からとった「だし汁」ではなく、100%鮭節からとった「だし汁」で割り、うどんにかけて販売しました。北海道の川を遡上する鮭は、イクラだけをとり、他は産業廃棄物として大量に処理されています。この産業廃棄物として大量に処理されている鮭を有効活用し、天使祭の場が鮭節を広める良い機会になることを願い、鰹節ではなく鮭節を使用しました。「天使祭」の3週間ほど前に本返しを作って冷蔵庫でねかせておき、前日に本返しを割るためのだし汁を鮭節から大量にとりました。

また、部員全員で道産の小麦粉を自宅に持って帰ってこねてきてもらい、天使祭当日に製麺、ゆでる……といった作業を行いました。今年は販売食数の目標を600食としていましたが、天使祭2日間を通して目標食数をはるかに超えた697食を売り上げました。2日目には事前に準備し



た生地だけでは足りず、急ぎよ新たに生地をつくるという作業も行ってくらいました。夏の暑い中、製麺してゆでて盛り付けて運んでという作業をずっと繰り返し、とても体力を要するものでしたが、部員全員が本当によく動いてくれたおかげでお客様をあまり待たせることなく697食のうどんを販売することができました。

味部門では残念ながら入賞することはできませんでしたが、多くの方にうどんを食べてもらうことができ、同時に『鮭節』も知ってもらえ、「天使祭」の場が鮭節を広める良い機会になったのではないかと思います。来年もまたうどんを販売するかどうかかわかりませんが、もしうどんを販売することになったらさらにおいしいめんつゆとうどんを目指したいと思います。

助産研究科 助産教育分野修了生インタビュー

助産教育分野での学びを生かし
助産師の魅力を伝えていきたい

助産研究科助教
助産専攻助産教育分野2010年9月修了 宮本 涼子

1年半にわたった助産研究科助産教育分野での学修も、9月末で修了を迎えました。わたしは、助産師として7年間の臨床経験を積み、昨年度、助産教育分野に入学しました。臨床では日々充実感を得て勤務していましたが、経験年数を重ねるにつれ、実習指導や新人教育を担うようになり、悩むことも多くなりました。それは、学生や新人の指導を行う際に自分が教わった経験を基にすることが多く、また、経験だけでは対応しきれないことが増えていったからです。そこで、今後も助産師を続ける以上、後輩育成は大切な責務であり、その責務を果たすためには効果的な指導・教育を行えるように学修する必要があると考え、助産教育分野への入学を志望しました。

助産教育分野では、講義や演習、実習を通して、まず自分の臨床経験を振り返り、その後、助産師教育について学修を深めます。自分の臨床経験を振り返ることにより、新たな知識を得ると共に自分の助産観を見つめ直すことができました。さらに、助産基礎分野の学生との関わりを通し

て、臨床では気づくことができなかった、助産師を志す学生の考えや思いに触れ、学生を理解して指導を行うことの重要性を理解できたように思います。

助産師教育の学修を通して、助産師を取り巻く状況は刻々と変化する一方で、実習指導の仕方はあまり変化がなく、わたしのように経験で対応していることが多いことが問題であるとあらためて感じました。また、臨床では、学校の教員との溝を感じることも多く、積極的に教員と連携を図ることができていませんでした。しかし、教育に関する学びを得た今、教員の立場や役割を理解し、教員と協力して学生の実修目標の達成を目指すことの重要性を実感しています。

入学以来共に学んできた6名の仲間は、それぞれ臨床経験年数や経験内容が異なり、助産に関して助産師教育に関してさまざまな考えを持っています。助産師は熱意のある人が多いと言われていた通り、討論では熱い思いをぶつけあい、熱中するあまりに論点から外れることもしばしばありました。修了とともに離れてしまうのは寂しい気はしますが、この1年半の学びを分かち合い、後輩育成という同じ目標に向かって頑張る仲間がいることは本当に心強いことだと感じています。

今後は、助産教育分野で得た学びを生かしながら後輩育成に携わり、助産師という職業が伝承されるように、後輩に助産師という職業の魅力を伝えていきたいと考えています。

第4回

つれづれ考

本学教職員によるレコーラム

おすすめ文房具

助産研究科教授 高橋 弘子

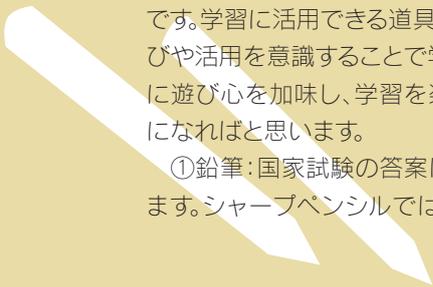
医療系大学の教師をしていると国家試験受験について学生から相談を受けることが多くあります。わたしが個別相談をうけた場合は学習内容・学習方法の二つを意識して話します。学習方法については大学入試で経験済みの学生たちなので、自分なりの勉強スタイルをもっており、それなりにやっています。授業のノートや資料の整理が完璧で、自分で調べたものも追加して綴じ込み、見事に自分用の事典を作り上げている学生もいます。ありふれた大学ノートも安い紙ファイルも、シンプル故に情報が浮き出してみえる良い例だと感心してしまいます。

しかし整理が苦手なひとがいるのも事実です。学習に活用できる道具として文房具選びや活用を意識することで学習時間の余白に遊び心を加味し、学習を楽習にする時間になればと思います。

①鉛筆：国家試験の答えは鉛筆で記入します。シャープペンシルではありません。日



頃から、HB以上の濃い鉛筆をつかってノートをとる習慣をもっていると、就職試験の小論文もすいすい書けるようになるはず。鉛筆の芯の長さは2ミリ程度が折れないし削った形も美しい。鉛筆にキャップをつけてポケットにいれておけば実習場でのメモもさらさらと取れるはず。②手帳：大学生に手帳は必需品です。1年間の予定が一目でスケジュール管理が必要だからです。1月はじまり・4月はじまり、自由記載欄、ポケットやしおりの形、いろいろあるので選ぶ楽しみ、毎日使って自分の時間の主人になる楽しみが広がります。③ファイル：綴じるスタイル、投げ込み式の両方を使いこなすと便利。封筒の片側を開いて投げ込む方法もありでしょう。④その他：糊（貼ってはがせるタイプ）、定規、カッターナイフ、はさみ、文鎮、ホチキス、セロハンテープ、4色ボールペン、色鉛筆、クリップ、ポストイット等々、いろいろ便利なものを探して使ってみて、いいものを見つけたら教えてください。



入学前教育の実施から 初年次教育に向けて

教養教育科長 田島 忠篤

本学では、2010年4月新入生オリエンテーション期間中に全入学生を対象として、高等学校の「化学」「生物」に関する診断テストを実施しました。これより前の2005年度からは英語プレースメント・テストを新入生全員に対して実施しております。これらの試験結果を基に英語の習熟度別クラス編成や生物・化学の履修指導を中心に初年次教育を実施してきました。

なぜ、入学直後に試験をするかということ、多様な新入生に高校時代の知識と大学での学修を円滑に結び付けるためです。とくに、この多様性に適合した授業を展開することによって学生の動機付けを高め、効果的な学修がはじめて実現可能となります。英語は大学での学修には必須の言語であり、化学・生物は看護学科・栄養学科の「専門基礎科目」にあたり、大学で学ぶために高校時代の知識が必須となるからです。

ここでは紙面の都合で「化学・生物診断テスト」を中心に「入学前教育」と「初年次教育」について本学の取り組みを紹介いたします。まず、入学が確定した段階で、化学・生物両科目のテキストを入学予定者の手元に配布し、入学直後にこれらのテキストを基にした診断テストを実施することを伝えました。受験後も継続的に学ぶことによって、入学前から動機付けを図り、入学後の学修を円滑にしていきます。その成果は、平均80点を越える診断テストの結果に如実に反映されていました。

化学・生物診断テストや英語プレースメント・テストは、高校との連携を図った入学前教育と大学での初年次教育の一環として実施されました。初年次教育に当たるものとして、本学ではこのほかに専門職業人教育や大学のスタディ・スキル(図書・情報検索やレポートの書き方など)などを実施しています。しかし、ここで紹介したのは、専門職業人としての知識習得に主眼が置かれております。

この初年次教育は、本学の教育課程をより効果的にするための第一歩で、これからが本番です。卒業時に本学の目指す専門職業人になるため、2年次、3年次に授業内外でどのような教育課程が必要で、どのようにしたら効果的に学修できるか検討しなければなりません。

開学以来、本学では、入学式からはじまり、「出会いと親睦のゼミ」というオリエンテーションキャンプ、看護学科の戴帽式、栄養学科のステップアップセレモニー、それに加え各学年で実施される修養会、天使祭、合唱コンクール、体育祭などの学校行事と合わせて、建学の精神「愛をとおして真理へ」の具現化を図るため授業外でも教育実践してきました。こうした正課外教育と合わせて学生にとって解りやすく学修できるよう初年次教育という新たな視点で見直しが始まっているのです。

学生の取り組み

学生禁煙サポーター

「ぴあの会」の設立について

看護学科2年 真壁 郁子

Peer

「ぴあの会」は教職員で構成される学生委員会との連携・支援により発足し、2010年度から活動を開始しました。会の目的は、私たち学生が将来の医療従事者として健康問題に関心を持てるよう、自主的に啓発活動を企画・実践し、全学生に還元することです。学科や学年の枠を超えて医療従事者を目指す「仲間」としての輪を広げていきたいというのが発足のきっかけです。「ぴあの会」には仲間という意味があり、学生間のピアサポーターでありたいという願いから「ぴあの会」と名づけました。

主な活動内容は、学生禁煙サポーターとしてセミナーなどの企画・実施です。また、天使祭での健康啓発活動や自主的な健康関連活動の企画・運営、大学が企画する健康関連活動への協力も行います。前期の活動実績は、6月に実施した1年生対象の禁煙セミナーや天使祭での体験ブースの企画・運営です。禁煙セミナーでは「どうしたら喫煙を減らせるか」とメンバー全員で話し合いを重ね、「スモーカーフェイス」、「喫煙によって生じる」生々しい写真、「在学生(喫煙者、非喫煙者、元喫煙者)へのインタビュー」など、学生の目線で企画しました。その結果、実施後のアンケートでは「吸うつもりが無い」は100%、「ためになった」は95%という回答が得られました。天使祭では健康について考えてもらおうと、体育館に「スモーカーライザー」、「車椅子体験」、「妊婦・高齢者体験」、「正しい手洗い教室」の体験型ブースを設け、多くの方に体験してもらうことができました。これらの活動には前例がなく戸惑うことも多々ありましたが、多くの教職員や学生の協力が得られ有意義な結果となりました。また、保健相談室が企画したエコナプキンや天然ハンドクリーム作りへの協力や、北海道薬科大学の北菓祭で「薬物乱用防止キャンペーン」にも参加・協力を行いました。

今後は、学生間の交流の場として勉強会などの企画や、北海道薬科大との連携など学外活動にも取り組んでいきたいと思っています。



1年生対象「禁煙セミナー」では、スライドによる説明の他、学生によるディスカッションを行いました



天使祭で体験型ブースを手伝ってくれたメンバー、先生方

今年の天使祭を振り返って

天使祭実行委員長・看護学科2年 上原 えり

2010年、今年の天使祭をあらためて振り返ってみて、この期間はわたしにとって、すごく大変でしたがとても楽しく充実していた日々だったと感じます。

2010年の年明けに、葦の会のメンバーで集まり企画を始めました。始めは、さまざまな企画を考えることが楽しく、「今年はこうしてみよう」と、実現が難しいことでも想像を膨らませ話し合いをしていたことも、今となっては良い思い出です。しかし、天使祭が近づくにつれ、やらなければならない仕事の多さがわかってくるとだんだん焦りを感じ、「これで無事に天使祭ができるのだろうか」と直前にもかかわらずとても不安になりました。しかし、葦の会や実行委員のみんなが、各自のやるべき仕事をしっかりこなしている姿を見て、とても心強く、また、自分も頑張らなくてはならないと気を引き締め直して取り組むことができました。

結局、天使祭は無事に開幕することができました。今年は特に、ステー



さまざまなステージイベントが行われ、盛況でした



ジイベントに力を入れ、中夜祭もできたことで、数々の反省する部分がありながらも、より学生が楽しめる天使祭になったと思います。その他にも、「びあの会」による健康チェックや栄養学科4年生による栄養チェックなど、今年から新たに行った企画もありました。これらは天使大学らしいわたしたちの学びが役立つ内容で、参加していただいた皆さんにも楽しんでいただけたのではと思います。

天使祭までの取り組みを振り返り、葦の会のみんな、天使祭実行委員のみんな、学生のみんな、そして先生方の協力があったからこそ最後までみんな楽しく学祭に取り組み、無事に終えられたのだとあらためて強く思いました。今回、天使祭実行委員長として学生の中心となってこの行事を進めていく役割になり、どうすればよいかわからないことや、不安などがたくさんありました。しかし、そのような状況だったからこそ、忙しいにもかかわらず、快く手を差し伸べてくれた仲間、進むべき方向を一緒になって考えてくれた仲間の大切さを何より実感できたと思います。天使祭を通じてとても良い経験をさせていただきました。

最後にあらためて、協力してくださった葦の会・天使祭実行委員・学生のみんな、先生方に感謝の言葉を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

LECTURE MEETING



「Dreams come true!」 鈴井貴之さん・森崎博之さん 講演会

葦の会会長・看護学科2年 菊地 翔平



鈴井さん、森崎さん、小橋さんを囲んで記念撮影

今回、この講演会が開かれることになった経緯は、2009年度の天使祭に芸能人が来ていただくことになっていたのですが、新型インフルエンザの影響で中止になり、さらに、体育祭も新型インフルエンザのために開催できなくなり、在学生、特に4年生に、行事が中止になった分を還元したいという思いで行われました。緊急の企画であったため、引き受けていただける芸能人の方はいないので、とても不安を感じながら計画していたのですが、鈴井貴之さん(クリエイティブ オフィスキューの社長)が快く引き受けてくださり、さらには森崎博之さん(Team NACSのリーダー)、そして「グッチーの今日ドキ!」でおなじみの、小橋亜樹さんもMCとして来ていただき、2010年3月11日に開催することができました。

この講演会の趣旨は、「Dreams come true!」というタイトルにもあるように、鈴井さんと森崎さんが夢をかなえるために、今までどのような努力をされてきたのかを伺いたいというものでした。私が特に印象に残っているのは、鈴井さんがおっしゃった「夢というのはかなわないことが多い。だからわたしが目指すものは目標という言葉にし、そしてその目標にがむしゃらに向かっていくことが大切だ!」という言葉です。私たち学生は、看護師や保健師、管理栄養士、栄養士、助産師をそれぞれ目指している最中ですが、何度も何度も「今、自分が行っていることは正しいのか?」、「間違っていないのであろうか?」という壁にぶつかることがあります。しかし、鈴井さんと森崎さんのお話を伺い、自分の目標に向けて、自分を信じてがむしゃらに突き進めば、夢にたどり着けるのではないかという気持ちを強く持つことができました。「簡単に夢をあきらめてはいけない」、「努力をすることの大切さ」、「夢はかなえられるのだ」という力をいただくことができた素晴らしい講演会でした。

2009年度 決算概要 (2009年4月1日から2010年3月31日まで)

天使大学ホームページでも決算概要を公開しています

天使学園 資金収支計算書

(単位:円)

支出科目	予算	2009年度	増減	収入科目	予算	2009年度	増減
人件費支出	847,210,000	876,134,120	△28,924,120	学生生徒等納付金収入	△28,924,120	1,142,981,500	40,500
教育研究経費支出	268,060,000	252,344,896	15,715,104	手数料収入	15,715,104	26,243,555	△7,243,555
管理経費支出	67,187,000	60,143,813	7,043,187	寄付金収入	7,043,187	32,108,514	441,486
施設関係支出	20,378,000	19,334,647	1,043,353	補助金収入	1,043,353	212,458,236	△484,236
設備関係支出	43,246,000	42,971,841	274,159	国庫補助金収入	274,159	212,387,000	△487,000
資産運用支出	97,000,000	97,000,000	0	地方公共団体補助金収入	0	71,236	2,764
その他の支出	28,637,290	31,538,116	△2,900,826	資産運用収入	△2,900,826	14,523,413	△823,413
予備費	3,050,000		3,050,000	事業収入	3,050,000	15,062,750	△4,302,750
資金支出調整勘定	△16,305,000	△15,893,046	△411,954	雑収入	△411,954	22,596,025	△9,828,025
次年度繰越支払資金	1,868,751,711	1,849,523,632	19,228,079	前受金収入	19,228,079	591,170,000	27,220,000
				その他の収入		21,382,928	3,758,317
				資金収入調整勘定		△631,569,658	5,338,658
				前年度繰越支払資金		1,766,140,756	0
支出の部合計	3,227,215,001	3,213,098,019	14,116,982	収入の部合計	14,116,982	3,213,098,019	14,116,982

資金収支計算書は、学園の1年間のお金の動きを表示したもので年度末にいつでも引き出すことができるお金をいくらあるかを計算する計算書です。資金収入には、授業料、補助金等、資金支出には、教職員給与、消耗品、水道光熱費、建物、機器備品等の購入を含めすべてを計上します。

天使学園 消費収支計算書

(単位:円)

支出科目	予算	2009年度	増減	収入科目	予算	2009年度	増減
人件費	851,710,000	878,132,102	△26,422,102	学生生徒等納付金	1,143,022,000	1,142,981,500	40,500
(内退職給与引当金繰入額)	(15,500,000)	(23,450,492)	(△7,950,492)	手数料	19,000,000	26,243,555	△7,243,555
教育研究経費	369,160,000	353,410,205	15,749,795	寄付金	38,650,000	37,334,023	1,315,977
(内減価償却額)	(101,100,000)	(101,065,309)	(34,691)	補助金	211,974,000	212,458,236	△484,236
管理経費	69,387,000	64,426,543	4,960,457	国庫補助金収入	211,900,000	212,387,000	△487,000
(内減価償却額)	(2,200,000)	(4,282,730)	(△2,082,730)	地方公共団体補助金収入	74,000	71,236	2,764
資産処分差額	2,720,000	2,621,272	98,728	資産運用収入	13,700,000	14,523,413	△823,413
予備費	950,000	950,000	0	事業収入	10,760,000	15,062,750	△4,302,750
	3,050,000		3,050,000	雑収入	12,768,000	22,596,025	△9,828,025
消費支出の部合計	1,296,977,000	1,299,540,122	△2,563,122	滞属収入合計	1,449,874,000	1,471,199,502	△21,325,502
当年度消費収入超過額	94,397,000	118,257,621	△23,860,621	基本金繰入額合計	△58,500,000	△53,401,759	△5,098,241
前年度繰越消費収入超過額	178,355,852	178,355,852	0	消費収入の部合計	1,391,374,000	1,417,797,743	△26,423,743
翌年度繰越消費収入超過額	272,752,852	296,613,473	△23,860,621				

消費収支計算書は、学園の1年間の諸活動から経営が健全に行われているかどうかを把握するための計算書です。消費収入と消費支出を比べて収入が上回れば「消費収入超過額」、反対に支出が上回れば「消費支出超過額」となります。学校法人が将来にわたって維持発展するためには、消費収入と消費支出の均衡する財務体質が求められます。

学校法人の負債とならない収入のことで、実質的な法人の収入をいいます。

天使学園 貸借対照表(2010年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部			負債の部				
	2009年度	2008年度	対前年度増減		2009年度	2008年度	対前年度増減
固定資産	3,267,500,513	3,210,756,827	56,743,686	固定負債	261,645,758	259,653,776	1,991,982
有形固定資産	2,535,416,113	2,575,853,427	△40,437,314	退職給与引当金	261,576,758	259,578,776	1,997,982
土地	438,082,994	438,082,994	0	その他の固定負債	69,000	75,000	△6,000
建物	1,618,552,554	1,665,755,743	△47,203,189	流動負債	640,640,040	663,600,410	△22,960,370
その他の有形固定資産	478,780,565	472,014,690	6,765,875	負債の部合計	902,285,798	923,254,186	△20,968,388
その他の固定資産	732,084,400	634,903,400	97,181,000				
流動資産	1,881,369,207	1,787,421,901	93,947,306	基本金の部			
現金預金	1,849,523,632	1,766,140,756	83,382,876	第1号基本金	3,843,970,449	3,790,568,690	53,401,759
その他の流動資産	31,845,575	21,281,145	10,564,430	第3号基本金	20,000,000	20,000,000	0
資産の部合計	5,148,869,720	4,998,178,728	150,690,992	第4号基本金	86,000,000	86,000,000	0
				基本金の部合計	3,949,970,449	3,896,568,690	53,401,759
				消費収支差額の部			
				翌年度繰越消費収入超過額	296,613,473	178,355,852	118,257,621
				消費収支差額の部合計	296,613,473	178,355,852	118,257,621
				負債の部基本金の部及び消費収支差額の部合計	5,148,869,720	4,998,178,728	150,690,992

貸借対照表は、当該年度末において学園が保有する資産、負債、消費収支差額を一覧表示したものです。

基本金とは、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うために必要な資産(校地、校舎、機器備品、図書等)を継続的に保持しなければならないもので、教育水準の維持向上と学園の円滑な運営を図るために、常に維持しなければならないものです。

天使学園・財産目録(2010年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 基本財産		
(1) 土地 札幌市北13条東3丁目30番73他4筆	30,390.2800㎡	438,082,994
(2) 建物 1号館 鉄筋コンクリート造 2階建他9棟	14,124.1713㎡	1,618,552,554
(3) 構築物 中沼グラウンド他32点		13,983,559
(4) 教育研究用機器備品	1,880点	126,790,783
(5) 少額重要資産	5,896点	37,261,194
(6) その他機器備品	287点	5,025,201
(7) 図書	92,851冊	295,719,828
(8) 電話加入権		384,400
基本財産計		2,535,800,513
2 運用財産		
(1) 現金・預金		1,849,523,632
(2) 積立金		698,950,000
(3) 未収入金		21,338,658
(4) 長期貸付金		32,750,000
(5) 短期貸付金		10,506,917
運用財産計		2,613,069,207
資産の部合計		5,148,869,720
II 負債の部		
1 固定負債		
(1) 退職給与引当金		261,576,758
(2) 長期預り金		69,000
固定負債計		261,645,758
2 流動負債		
(1) 未払金		15,588,246
(2) 前受金		591,170,000
(3) 預り金		33,881,794
流動負債計		640,640,040
負債の部合計		902,285,798
正味財産		4,246,583,922

監査報告書

2010年5月13日

学校法人 天使学園
理事長 近藤 潤子 様

学校法人 天使学園
監事 小片 基
監事 伊藤 好孝

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人天使学園寄附行為第15条の定めに基づき、本法人の2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで)学校法人の業務の状況、事業の実績及び財産の状況を監査しました。

私たちは監査に当たり、理事会及び評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、本法人の2009年度の財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書は、財産及び収支の状況並びに事業の実績を適正に表示しているものと認めます。

また、本法人の業務または財産に関し不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

オープンキャンパス報告

2010年6月19日(天使祭と同時開催)に第1回オープンキャンパスを、8月2日(看護学科)、8月3日(栄養学科)に第2回オープンキャンパスを開催しました。開催当日は天候にも恵まれ、30度近い気温にもかかわらず、大勢の方に参加していただきました。第2回オープンキャンパスでは模擬授業も行われました。看護学科は、基礎看護学、母子看護学、成人看護学、地域看護学の授業を、栄養学科は、栄養教育論、管理栄養士論、食品科学、臨床栄養学の授業が行われ、参加者は楽しみながら看護学、栄養学の基礎に触れていました。また、相談コーナーでは、教職員の他、在学生と交流する姿が見られ、参加者は入試以外にも天使大学での授業、キャンパスライフなど、さまざまな情報を聞き、疑問や不安を解消しているようでした。オープンキャンパスに協力した在学生からも「キャンパスツアーや相談コーナーなどの機会を通じて、参加していただいた方とたくさんお話をすることができ、交流を深められてよかったです」という感想が寄せられました。第3回オープンキャンパスは10月9日に開催します。

一方、大学院助産研究科のオープンキャンパスも8月21日に開催しました。また、首都圏の方にもっと助産研究科を知っていただくために、初の試みとして『助産研究科説明会 in 東京』と題して、8月28日に聖母大学(東京都新宿区)で説明会を行いました。



【参加者の声(第2回オープンキャンパス参加者アンケートより)】

- 資料だけではわからないことがわかってよかったです。
- 授業は大変そうですが、仲間と協力し合っていて、いいなと思いました。
- 施設が整っていて、きれいでした。
- 先輩のお話を聞いて、毎日が充実していて楽しそうという印象を受けました。
- 楽しかったので、来年も参加したいです。
- 今回参加してみて、天使大学に入学したいとあらためて思いました。
- 皆さん優しく、私も将来、先輩たちみたいになりたいと思いました。

新任昇任等(2010年3月~4月時点)

【学校法人本部】

- 退任
常務理事 大津忠行
- 新任
理事 近藤潤子
理事 丸山知子
理事 菅原邦子
評議員 辻崎正幸
評議員 小原まり子

【教職員】

- 退職
助産研究科
教授 石塚百合子
教授 リリー・シャ
講師 川満恵子
助教 田村知子

- 看護学科
准教授 小林千代
准教授 佐藤昇子
講師 菊地美香
助手 鳥巣妃佳里
- 栄養学科
准教授 木谷信子
助手 田中智美
- 事務局
総務課員 関邦良
総務課員 金山みどり
学務課長 竹内祥文
学務課員 林美希
学生相談員 定岡久美子
図書情報課長補佐 野原正則
- 採用
助産研究科
教授 高橋弘子
講師 中島桂子

- 看護学科
教授 須藤桃代
准教授 大野和美
講師 久賀久美子
助教 小日向真依
助教 前田尚美
助手 布あずみ
助手 大道梨乃
- 栄養学科
准教授 鈴木純子
助手 古川直美
- 教養教育科
講師 目時光紀
- 事務局
総務課員 山本美穂
学務課員 宮島敏秀
- 昇任
事務局 総務課主幹 豊島利昭

教育振興寄附金への納入に感謝いたします

本学では、施設・設備の整備および奨学金制度の拡充に伴う、教育・研究、学習環境の整備を図ることを目的として、卒業生、在学生の父母、教職員、会社等法人を対象に、2005年2月から5年間行ってきた教育振興寄附金の募集が一応終了いたしました。

寄附総額は、19,387,588円(657件)となり、皆さまのご厚志に感謝申し上げる次第です。寄附金については、チャペルのステンドグラス設置、天使大学シスター川原ユキエ記念奨学金への充実に使用させていただきました。なお、寄附をいただいた皆さまのご芳名は、別添の教育振興寄附金寄附者一覧に掲載させていただきます。

また、本学では引き続き、教育振興寄附金を受け入れておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

今後の日程(10月~12月)

10月	1日 看護学科講演会	11月	27日 戴帽式
	9日 第3回オープンキャンパス		29日 体育祭
12月	22日 フード&ライフステップアップ セレモニー	12月	8日 創立記念日
	24日 栄養学科講演会		14日 クリスマスの集い・ 学生総会

入学試験日程 【看護栄養学部】

	推薦入試 社会人入試	一般入試 看護学科 栄養学科	センター試験利用入試
出願期間	2010年11月1日(月)~11月5日(金)	2011年1月11日(火)~1月24日(月)	2011年1月11日(火)~1月28日(金)
試験日	2010年11月13日(土)	学科試験2011年2月6日(日) 面接試験※1 2011年2月14日(月) 面接試験 2011年2月7日(月)	本学個別面接試験※2 2011年2月21日(月)
合格発表日	2010年11月19日(金)	2011年2月17日(木) 2011年2月11日(金)	2011年2月24日(木)

※1: 一般入試で看護学科のみ、学科試験で第1段階選抜を行います。その場合、第1段階選抜合格者に対してのみ個別面接試験を実施します。

※2: センター試験利用入試で、適切な個人面接試験を実施するために、学科試験の成績で第1段階選抜を行うことがあります。

【大学院 看護栄養学研究科】

後期試験	
出願期間	2011年1月11日(火)~1月17日(月)
試験日	2011年1月22日(土)
合格発表日	2011年1月28日(金)

【大学院 助産研究科】

助産基礎分野(一般入試・社会人入試)・助産教育分野 後期試験	
出願期間	2011年1月11日(火)~1月17日(月)
試験日	2011年1月22日(土)
合格発表日	2011年1月28日(金)

あなたの声を
お聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先 〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部/看護学科・栄養学科
大学院/看護栄養学研究科
助産研究科(専門職学位課程)

第16号 2010年10月8日 発行 天使大学広報委員会 年2回発行(秋、春)

<http://www.tenshi.ac.jp>